

第3章 遺跡の概要

1. 遺跡の位置

太宰府市は、福岡平野の南東部、福岡平野を形成した河川の一つである御笠川の上流に位置する。ここは北から東にかけては三郡山系、西から南にかけては脊振山系と、両山系に囲まれた狭い盆地状の平野で、南東は筑紫平野と接している。太宰府市は福岡平野と筑紫平野を結ぶ要衝に位置し、古代には、大陸や朝鮮半島に近かったこともあり、政治や軍事、外交の拠点として太宰府政庁が置かれた。

また、本構想が対象とする客館跡は筑紫野市との市境にある西鉄二日市駅の北西にある。古代においては太宰府条坊跡のほぼ中央に位置し、朱雀大路の東に隣接する場所であった。菅原道真の謫居地として知られる府の南館跡（現、榎社）にも近く、また古代寺院般若寺が置かれた丘陵とも東で接している。元々、西鉄の所有地で、昭和61年頃まで電車の操車場として利用されていたが、その後主だった土地利用はなされずにいた。



遺跡の位置図



史跡指定範囲(面積:16,185.99 m²)